

知事広聴（賀茂地域）議事録

開催日時：令和6年10月18日（金）13時30分から15時

会場：東伊豆町保健福祉センター

出席者：知事、望月広聴広報課長、県民7名

（望月広聴広報課長）

本日はお忙しいところ、知事広聴に御参加いただきありがとうございます。

ただいまより、賀茂地域の知事広聴を開始いたします。私は本日の進行役を務めます、静岡県広聴広報課長の望月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議録につきましては、個人情報を除くなど、編集をした上で、後日、県のホームページにて公開をいたしますので、あらかじめ御了解願います。

また、本日、カメラで動画を撮影しております。動画全編を県のホームページで後日公開予定ではございますが、発言者の皆様にはあまり意識をされず、率直な御意見を頂戴できればというふうに思っております。

それでは開会にあたりまして、知事から御挨拶をお願いいたします。

（知事）

はいそれでは皆さん、こんにちは。本日は、御多用な中、この賀茂地域の知事広聴に御参加を賜りまして誠にありがとうございます。

また、本日は、開催地であります東伊豆町の岩井町長、そして河津町の岸町長、そして地元の加畑県議にも御参加をいただきましてありがとうございます。

この知事広聴は、地域の方からですね、率直にいろいろな御意見や御提言、御質問いただくという大変重要な取組でございまして、今年度はですね、何ていいますかね、ざっくばらんにですね、皆様から意見をいただくという形で10人程度の皆さんに集まっておいただきまして、車座形式ですね、自由に御発言をいただくという、こういう形式にいたしました。

皆様から今日いろいろとですね、地元で活動している中で感じる課題でありますとか御提言等をですね、率直にいただきまして、それをですね、私どもとしては、県政にしっかり生かしていきたいというふうに思っております。

昨日からですね、この移動知事室ということで、この賀茂地域にお邪魔をしておりますけれども、改めて本当に豊かな自然資源や観光資源があるなあと、そのポテンシャルの高さをですね、感じているところでございます。

一方でですね、今日の皆様からの御質問の中にもありますけれども、急速な人口減少の中ですね、地域としての様々な課題が山積をしているということもですね、いろいろな方から伺いました。これから人口減っていくわけですがけれども、そういう中であってもですね、いかに地域のコミュニティを維持し、そして人口が多少減ってもですね、いかに活力ある地域を作っていくか、こうしたことに関してはですね、住民の皆様と一緒に知恵を出し合って官民協働のもとにやっていかなければいけないというふうに思います。そういう意味でも、本日はですね、皆様から様々

貴重な御意見をいただけるものと期待をしております。

限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(望月広聴広報課長)

それでは次第に従いまして会議を進めてまいります。

まず初めに、本日発言者として御出席の皆様を御紹介申し上げます。お一人お一人御紹介したところではございますけれども、お時間に限りがございますので、配布資料に簡単なプロフィールを記載しております。こちらで御紹介に代えさせていただきます。

それではここから意見交換に移らせていただきます。

まず、私どもからテーマを一つ、発言者の皆様に御提示をいたします。

お名前をお呼びいたしましたら、着席のまま御発言をお願いいたします。時間が限られておりますので大変恐れ入りますが、お一人2分程度で御発言をお願いできればと思います。

県政世論調査でも例年お聞きをしておりますけれども、昨今社会情勢が大きく動いている中、皆様の日々の暮らし向きについてお感じになっていることを御発言いただければと思います。

まずA様、B様、C様、D様の4名に御発言をお願いできればと思います。

最初にA様、お願いいたします。

(A氏)

暮らしについてというか、観光産業の私は一員になるんですが、今暮らしの中で友人達に話を聞いたところ、磯焼け、海藻の減少による漁獲高の減少、水位上昇による海岸線の浸食リスクが進んでいるという話を聞いております。

この中で私達の生活や観光にどのように関係しているかという、漁獲量が少ない分、もちろん仕入れ単価も上がってくる。そこに自分たちももちろん値上げはしていくんですが、企業の努力無くして値上げをするだけではいけないとは思っています。

ただ、これ自分たちができる努力と、自分たちではできない努力というのがあっております。その中で、じゃあ県の方にどういうことをお願いしたいかと言ったら、海洋環境の調査とか、その保全策ですね、そのようなことに関して、どのようにしていただけるのか。

地域の声をどのように反映して、ともに行動していただけるのかということが今一番に感じているところであります。

以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

次にB様お願いいたします。

(B氏)

私、下田市の方で放課後等デイサービスと児童発達支援というちょっと障害があったりとか、発達に課題があるお子さん、1歳から高校3年生までの子供たちが通うような事業を下田市の方

でやっています。元々私は三島の方でこういった事業をやってきましたんですけども、三島市の方には本当に三島市だけでも 20 何箇所こういう事業所があるんですが、賀茂地域は私の父親が下田市出身だったってところで、下田市って同じこういう事業はどういうふうになってるのかなというところで、2 年前に下田の市役所の方にちょっと問い合わせしてみたところ、そういう事業が全くないよっていうところで、2 年前に下田市の方でまず放課後等デイサービスというのを立ち上げさせていただきました。伊豆半島のこの下の部分、下の部分なんですけど、三島、函南とか修善寺の方は本当にこれだけたくさんの事業があるんですが、伊豆半島の下の方、こちら賀茂地域には、私達の事業しか、うちしか一つしかないんです。

そういったところで、支援学校、特別支援学校もあるので、やっぱり需要も多かったり、不登校の子がいたりとか、やっぱりうまく馴染めないお子さんは、多くなってきているのが現状かと思っています。

その中で最初、2 年前はそういったところを使うよっていうお子さんも 4 人という形でスタートしたんですが、この 11 月で 2 年になるんですけども、今、下田の方で 2 つの事業所と松崎の方で 1 つの事業所を始めまして、今登録数が 80 名になっています。

地域の方では本当に子供は少ないよっていうことだったんですけども、やっぱりそこが必要になってお子さんはすごく増えていて、その中で私達も本当に保護者の方達がこの地域の中で、地域にそのまま根付いていられるようにうまく支援していきたいっていうものがやっぱりありまして、ただその中で賀茂地域とても地域が広くてですね、下田市で 80 人の子を、小学校、西の方までフォローに行ったり、東伊豆の方も少し使ったりとかっていうところで、今、学校にお迎え行くのにも、片道 45 分とかかかってお迎えに行っています。

そういったところで、制度の中でやるものなので、そういったところの制度がしっかり決まっているものなので送迎の単価だったりとか、そういったものが片道 600 円ぐらいという形になります。それでも需要もすごく多くて保護者の方とても困ってる部分もあるので、やっぱり人件費を削りながらも、ちょっとその辺はうまくやっていきたいなっていうところで今続けています。

なので、賀茂だけではないとは思いますが、やっぱり他の市町には他にも数多く事業所があるので、他のところでちょっと聞いてみてとかってフォローしていただくことができるんですが、どうしても私達事業所でやるしかないというのが現状で、その賀茂特有の部分の少し県の方でも、考えていただけたらありがたいなと思います。よろしくをお願いします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

次に C 様お願いいたします。

(C 氏)

はい、すいません、C と申します。普段は自動車販売を行っておりまして、2020 年のコロナ禍をきっかけに地域の有志の団体で野外シネマの上映等を行っております。

そこでいろんな保護者の方と接することがあり、この東伊豆町に住んでいて、6 年以上も前からなんですけど東伊豆町で話し合われている小学校・中学校の統合、そして今唯一の高校である

稲取高校の廃校を防ぐため、小・中・高の合併案が浮上していると思います。この合併案、私の子供が今4年生と5年生なんですけど、幼稚園に通っている頃から議論されていましたが、現在、その子供が5年生となり、いまだに実現されていない状況になっています。少子化の影響で中学校では文化部がなく、運動部のみが存在する状況です。

町長は地域のために尽力していただいている、進捗を報告していただいておりますが、県の援助や知事との話し合い等を進めている状況ということで、これをどうにか進めていただけたら子供たちも住みよい町になるのではなかろうかと思います。よろしく願いいたします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

次にD様、お願いいたします。

(D氏)

よろしく願いいたします。

私達が主催する伊豆稲取キンメマラソンは、今年で第7回を迎えて全国から2,800人を超えるランナーの皆さんにお越しいただいております。今後さらなるエントリー数を目指してまして、一番課題になってくるのはやっぱり人材不足になっております。

バスが送迎で必要なんですけれども、運転手不足のためにこれ以上バスを増やすことはできなかったり、各担当のスタッフも十分とは言えない人数で運営させていただいております。人口が減る中で、補助や助成に頼らない、自立型のイベントを作らなければ今後イベントの開催も不可能になると思い、10年前にこのNPOを立ち上げて、マラソン大会を主催する形でやらせていただきました。

宿泊者は熱海から下田まで結構多岐にわたって広がってるので、地域全体で今後どうやってもっと人数を受け入れていくとか、そういうことを課題に取り組んでいかなければいけないかなと思っております。

その中で、その活動とは別に児童養護施設のサポートもさせていただいております。

全国に600の施設がありますけれども、そこに4万人ぐらいの子供たちが暮らしております。18歳になるとこの子供たちは親のサポートもなかなか受けられないまま社会に出て、なかなか厳しい状況が待ち受けている形になってるのが今の現状だと思っております。

その中、地域でサポートしながら、手に職をつけたりとか、家を借りることすらなかなか困難だったりもします。そういう中で寮が完備されているこういう観光地だったりとか、子供たちが就きたい職業がこの地にあるのならば、受け入れながら子供たちの未来を支えてあげられるような地域であってほしいなど。それが人材不足に、また少しでも助けになっていただければいいなと思って活動しております。

よろしく願いします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは知事の方から御発言をお願いいたします。

(知事)

はい。ありがとうございました。

Aさんの方から、漁獲高が減ったりですね、漁業が大きく変容してるというお話を伺いました。これ温暖化の影響もあってですね、かなりやっぱり漁場に変化があってですね、いろんな漁業に大きな影響が出ていると。

これ静岡県もそうですし、全国的にそういう課題がございます。

こういったことに対して、まずは原因究明でありますとか、技術的にどういうことができるのかと、県の方もそうした研究施設を持ってますので海洋研究、行っております。

この辺ではキンメとかですね、イセエビなんかですね、取れなくなったとか、浜名湖いきますとアサリがもう絶滅状態でありまして、そうしたものの資源をどう回復するかということについては、これから専門家も含めてですね、しっかり研究していきたいし、県だけで無理な部分は国等の知見も生かしていきたいというふうに思いますし、今の一方で、現在Mauiプロジェクトですね、マリンを使った新しいイノベーションを起こそうという取組でございまして、特にあの駿河湾の中を、一つのブランドとしましてですね、スタートアップでありますとか、大学とか研究機関とか、そういうところが集まってですね、新しい海洋ビジネスを作ろうと、こんな取組をしておりますので、県としてもですね、そうした新しいイノベーションを起こすというと同時に、今ある直近のその漁業にまつわる課題についてですね、取り組んでいきたいというふうに思いますので、またいろいろ現場の声がありましたらお聞かせいただければというふうに思います。

(A氏)

小豆島のほうで同じようなことがあって、何かその解決策を聞いたのですが、それが、海がきれいすぎてしまうからということで、下水を流して、それで改善した話も一度は聞いております。そういうのが少しでも何か同じような対策をとっていただければ、少しは改善に向かっていけばいいかなというのが、今日お話できればと思います。

(知事)

わかりました。

ちょっと私も海洋の専門家じゃないので、技術的なことはなかなか答えにくいんですけども、またあの今日、職員もおりますので、しっかり担当の方に伝えていきたいというふうに思います。

それからBさんの方から支援の必要な児童が増えていると、だけど、なかなか賀茂にはそうした受入れの体制がないというお話をいただきました。

私どももそうした課題を認識をしておりますして、今県の方でできるだけそうした事業所を増やしていくためにですね、どうしたらいいかということで、事業所の代表者と、それから教育関係者あるいは関係団体等々ですね、市町の方にも参加をいただきまして、賀茂地区障害者自立支援協議会というものを設置をしましてですね、新たなサービスの受入れとか参入とかを行っていくように、今促しをしているところでございます。

なかなかすぐにはですね、一気になかなか改善しないかもしれませんが、そうした地道な活動の中で、サービス事業者を増やしていくということが大事だというふうに思います。

それから、令和6年の10月から障害福祉人材サポートセンターというものを開設をいたしまして、障害のある子供への支援の就業者の確保を図る、こんな活動もしております、ぜひですね、そうした人材の確保育成にも取り組んでいきたいというふうに思います。

それから、Cさんはまさにこの今課題となっている東伊豆町で幼小中高一貫のですね、施設を作ろうと、今日岩井町長も来ておりますけども、先ほどもちょっとその話をですね、町長ともさせていただきました。

これまた全く新しい取組ですし、御存じのように小中を所管する基礎自治体と、高校を所管する県とのいろいろ調整も必要になってまいります。当然これ施設の複合化というものが必要になりますので、その整備手法とかですね、その費用分担の問題とか、その実施のタイミング等ですね、いろいろ現場の調整事項がございますので、そういったことは取組を進めているところでございます。非常にいろんな年代のですね、子供たちが一緒にその教育の現場にいるというのは、非常にこれお互いにとって教育効果が非常に高いということは私どもも認識をしておりますので、ぜひ早期に、はい。

(C氏)

そういった段階を踏まえてやっていることはとてもわかるんですけども、もうその間に今ここに住んでる子供たちがどんどん大きくなってまいりますので、スピード感を持って行っていただければありがたいなと思います。

(知事)

はい、わかりました。

直接の所管は、これ教育委員会になりますので、またしっかりと教育委員会の方に伝えていきたいというふうに思います。スピード感を持ってやるように言っておきますので、よろしくお願いいたします。

それからDさんの方から、なかなかイベントのスタッフが確保できないってということで、なかなか特定の地域だけ、特に人口が減ってるってところだと、難しいところは非常に多い。どこでも共通の課題なんで、できるだけ広く人材確保するようですね、また知恵と工夫が要るんじゃないかなというふうに思うんですね。

私、実はこの前職は浜松市の市長をやっておりまして、浜松市って12市町村が合併して、実はこの伊豆半島よりでかいんですね。地域面積の半分が過疎地域指定を受けている地域でございます、やっぱり賀茂と同じような課題がいっぱいあります。

なかなか自分たちの地域では、もうイベントもですね、運営できなくなってるとか、あるいは伝統芸能がいっぱいあるんですけども、その担い手がいないと。ただその集落だけで新たな子供たちを担い手で育成しようと思っても、子供自体がいなくなってる現状の中で、だからもうちょっと広範囲で、浜松の場合一つの浜松市になってますから、浜松全体から子供たちにそういう担い手になってもらおうと、こんな取組をしたりですね、いろんなイベントもですね、市内全域か

らそうしたスタッフを集めるっていう取組をしてますし、中山間地域と都市部の交流というのを常に行うというそういう取組をしてきましたけれども、やっぱり少しこの広域で何かその人材を確保するということが必要となってくるというふうに思いますので、県としても支援できるところはですね、しっかり支援をしていきたいと思います。

もう一点、児童養護施設のお話もできました。確かになかなかやっぱり同じ伊豆半島でも、地域によって施設が充実しているところと少ないところと当然ありますので、先ほどの支援を必要としている児童に対するいろんなサービスの提供体制の問題もありますしですね、児童養護施設もできるだけやっぱり家庭的な温かみのあるところで子供たちが育つような環境が必要ですので、地域小規模児童養護施設でありますとか、ファミリーホームみたいなものの整備をですね、進めていきたいというふうに思っております。特に賀茂地域にはですね、そうした施設整備を進めていきたいと考えております。

とりあえず私の方からは以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

それではE様、F様、G様に引き続き伺ってまいります。E様お願いいたします。

(E氏)

はい、Eと申します。お願いします。

私は、2011年から関係人口的に東伊豆に関わっておりまして、2022年に移住、地域おこし協力隊に着任しておりまして、同年に起業しております。

私が東伊豆だったりとか賀茂を選んで移住してきたっていうのは、人口減少化する中で、観光資源があったりとか、豊かな自然、農村・漁村があたりというところで、人が減ってもマーケットを通してかなり可能性があるなと思っていて、希望を持って移住をしてきております。

そんな中で、協力隊の業務の中で移住・定住の促進をやっていたりとか、自身が起業した経験の中から思ったことが何点かございまして、県の支援制度の中で、まず移住の方でいきますと、もちろんお金がもらえるから移住をすればいいという問題ではないと思っているんですが、支援制度の中で端的に言いますと、東京に5年住んでいないと支援金がもらえないよという条件になっていたりとか、県が主催しているサイトの中から就業をしないと補助金がもらえないというような制度になっているかと思えます。

その中で就業先、東伊豆でいくと9事業者しか掲載されていない状況であって、せっかくいい制度があるのに、メッセージとして伝わってないのかなというのは、思ってる現状でございます。

同様に起業の方も、起業支援を受けるにあたって、県の方から起業支援のメンターをつけてもらえるような制度があるかと思えますが、それも沼津まで行かないと受けられないっていうのがあって、1時間半かけて行くのかとか、賀茂ってもしかして置いてかれてるのかな、みたいなところがメッセージとして感じないなと思っているところでございます。以上です。

(望月広聴広報課長)

F様お願いいたします。

(F氏)

Fと申します。

私、河津町で地域おこし協力隊として1年半前から移住して働かせていただいているんですけど、ちょっと生活に関してはもう皆さんすごく良くしていただいて、特に不満もないので特に言うことはないんですけど、私もいろいろイベントとか手伝わせていただいております、桜まつりが河津町であって、毎年2月にやってるんですけど、その桜まつりに関して河川利用の規制緩和をちょっとお願いしたいなと思っております。今あの桜まつり普通に桜咲いて、昔はですね土手の上に桜があるんですけども、川の両サイドでその川の土手のところに菜の花を植えて、すごいきれいだったらしいんですけども、今はそれがちょっとできてないんです。

河川の上の利用ということで、構造とかそういう治水系で問題があるかっていう確認されてると思うんですけど、全然昔はできてたみたいで、あの去年私イベントでお手伝いして、いろんな観光客の方に、「今年はやらないんですか」ってすごい声をかけられまして。それでいろいろ調べたらちょっと規制でできなくなったということなので、今実際ほとんどできてないんですけども、今も雑草は生えてて、その代わりに草刈りして菜の花を植えたところで、河川の管理に影響が出るっていうのはあんまり考えられないっていう感じなので、桜まつりが町としてすごい一大イベントなのでちょっとでも魅力を上げられることがあればいろいろ取り組んでいきたいなと思っております。もし知事のお力でそういうことができたりするんでしたら、ちょっとお力添えいただけたらありがたいなと思っております。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

G様お願いいたします。

(G氏)

私は河津町でNPO法人を運営しているGと申します。活動は、地域資源を生かした体験活動を進めて、子供たち、それから保護者、それから地域のシニアの方たち、それぞれが世代間、世代を超えて、または地域、今河津町を拠点でやりますけども、下田、東伊豆、南伊豆、西伊豆の方からも私達の活動に参加していただいて、地域間交流の方も進めていきたいと思って今進めています。

なぜこのような活動を始めたかっていうとやっぱり伊豆、先ほどから出てますけど、伊豆っていうのは本当に資源豊かで本当にいいところであると思います。そういったところでもっともっと子供たちが伊豆の素晴らしさを実感して、将来伊豆のことを自慢できる、自分たちの住んでる場所を自慢できる子供たちに育ててほしいなっていう思いが一つにありました。

で、本当に、伊豆は資源も豊かで、地域も温かいところなんですけども、ただやっぱり先ほどから話少し出てますけども、人口減少が非常にやっぱ激しいっていうところは、非常に感じます。今本当に河津だけじゃなくて、それぞれの様々な地域からNPOの活動に参加していただけてる

んですけども、やはりそういった中で一つの地域だけじゃなくて、やっぱりいろんな、広くいろんな地域の仲間が繋がり合うことが大事なのかなっていうことは活動しながら実感しています。

本当に子供たちの数が減ってるわけですけども、やはり、さらにある調査によると、将来賀茂に残りたいかっていう質問に対して、やっぱり割合が非常に低いという話も聞いています。

そういった意味で地元に残っていろいろ活躍したいなっていう子供たちがたくさんいることは事実ですので、そういった子供たちに対しての支援をしていければいいなっていうことを日々感じています。

私の知り合いの方から伊豆に、河津に戻ってきたいけど、やっぱりなかなか仕事がないと。こんなことしたい、例えばお菓子屋さんを作りたいとか、美容院開きたいとか、やっぱりいろんな若者が、外に出た若者が地元に戻ってきたいなあなんていう若者はたくさんいるよって話を聞いたことがあります。ただ、でもやっぱりこちらに戻ってきて、本当にできるかっていうと、なかなか現実としてはやっぱり厳しいっていうことを聞いています。

ただ、そういった意味で、やはり人口減少等々いろいろ問題ありますけども、今いる子供たちが将来、この地元に戻って活躍したいって思ってる子供たちに対していかに支援していくかっていうのを、県の方でも考えていただけたらなというふうに思ってます。

やはりいろいろと実際にこの地元で起業したい、何か事業を起こしたいっていう若者が、いざやろうと思ってもなかなか動けないっていうことでは、やはりどんどん地域が衰退していく一方だと思いますので、やはりそういった意味でも地元にいる若者、それだけじゃなくて、今、高校等卒業して、外に出た若者がこの魅力ある地元に戻ってきて、いろんな活動で地域を盛り上げたいなっていう思いを支援していくような、そういう仕組みを今後強化していただけたらなというふうに思っています。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは知事、よろしく申し上げます。

(知事)

はい。Eさんからですね、移住・定住のいろんな支援が使いづらいというお話をいただきました。

これ基本的にあの国、県、市町連携してやってるものでございまして、東京一極集中をですね、解消するってのが大きな目的の一つだもんですから、東京に在住何年とかですね、そういういろいろな制約がある、そういうことだろうと思います。

そういう国の制度を基軸にしてますんで、こっちが勝手に要件緩和するってのはなかなか難しいことだと思いますけども、できるだけ使いやすい制度になるように現場の声をですね、また国の方に届けていきたいと思えますし、起業支援につきましてはですね、ちょっと私も詳しい制度のところを調べてないんであれなんですけど、これもなんか使いにくいと。例えばメンターが沼津にしかいないと。ただこういうのって、今オンラインでできるはずなんで、そこはもっとですね、その仕組みをもうちょっと使いやすい仕組み、これは制度というよりも、その運用の仕方でいく

らでもできると思いますのでそういうところはですね、改善をしていきたいというふうに思います。

結構今起業も増えてますし、本当に先ほどEさんに言っていただいたように、この地域は本当に自然資源も豊かだし、観光資源も豊かだし、マーケットとしてもものすごいポテンシャルがあると、私もそう思っております。

それをやっぱり生かしていくためにはですね、外からやっぱり来て、いろんなその外からの目線でいろいろ起業して、事業を起こしていただくということはすごくこれは必要なことなんで、これからそういう人たちもですね、私増やしていきたいと思ってですね、いろんなそこに新しい知恵を使っていかなきゃいけないんで。で、ちょっと話長くなりますけども嬉野温泉でですね、和多屋別荘っていう老舗の旅館があって、この小原さんという社長さんものすごいアイデアマンですね、彼は何やったかっていうと、嬉野温泉の自分の旅館をですね、10室ぐらいかな、全部リノベーションして、スタートアップのね、サテライトオフィスにしたんですよ。

そこにばんばんスタートアップが入ってきて、スタートアップがそこに来るっていうことは、若い人たちがですね、若い人たちにとってもね、24時間温泉につかりながら仕事ができるという最高の環境なんですね。どんどんそういう人が若い人たちが出会い、するんで、すごく活性化するわけですね。これ一つ大きな知恵だと思って、早速小原さんを、県のアドバイザーにしましてですね。

伊豆半島でこれやったらもっとポテンシャルあるんじゃないかな。東京からどんどんどんどんスタートアップを呼び寄せることができると。

完全移住もいいんですけども、これから二拠点居住とか二拠点活動っていうのが、特にこの伊豆や東部地域ですね、非常に可能性あると思って、首都圏とそういう行き来するようですね、人が増えればですね、必ずこの地域活性化しますので、そういうちょっといろいろ知恵を使ってですね、取組をしていきたいなというふうに思っております。

それからあの、Fさんからの河川の柔軟な活用法、もうそれこそ先ほど、岸町長からそういうお話をいただいて、これ河川法ってのはですね、勝手にこれ、我々が変えることできないんで、なかなかそれをですね、河川法に反して何か物事をやるってできないもんですから、菜の花なんかねそういう深い植生のものが繁茂すると、やっぱり根が腐食したり、堤防が弱くなっちゃったりしてですね、その本来堤防の機能が損なわれるんで、そういうものはやっぱり堤防に植えちゃいけませんよと。ただそこを除けば全く問題ないんで、そういう植える場所をどういうところにするかっていうですね、今の桜もですね、実は今度新たに植え替えようとする、今の場所に植えられないですね。

ですから、ちょっとその土手をですね広くして、その堤防にかからないところにですね、桜の植え替えをですね、やっていこうと。ちょっと今日岸町長とそういう話もさせていただいたんですけども、なかなか法律は捻じ曲げられませんが、その法律に引っかからないようにこつちが知恵を使って新たな代替策を見つけていくという形ですね、取り組んでいきたいというふうに思います。

それからGさんからはですね、地元に戻ってきたい人がいてもなかなか、そういう希望をかなえられるような受皿がないというお話をいただきましたので、これはやっぱりマッチングが必要

だと思いますね。地元に戻って働きたいという人にですね、きちっとその働き先を提供できる情報提供とか、マッチング、そうしたものは今、県でもUターン、Iターンの取組の中でやっていますが、そういうことを行っていくとか、先ほど出ました起業ですね、こういう起業支援をしていくとかですね、あるいはまず子供たちに、やっぱり地元が本当にいいとこなんだということの子供の頃から知ってもらってという、こういう活動も大事だと思ってまして、それやっぱり教育の中でふるさと、郷土を愛する心を育てるような教育をしたりですね。

私、やっぱり大学に進学して出てった後では遅いと思って、私あの市長時代ですね、二年間で全高校回ると。私が特別事業をやるっていう取組をやってまして、ちょうど1・2年生対象なんです、二年で一巡するとですね、人が入れ替わりますんで。僕は浜松の良さとか、あるいは市がこんな取組してます、こんな可能性ありますよってことを、高校生の皆さんにお伝えして、皆さんがやっぱり地元のこれから担い手になってくださいっていう、そういうメッセージをですね、常に私本人から伝えて、どれだけそれが効果あったかわかりませんが、いろんな感想文なんか見ますと、結構本当涙出てくるような感想をいただく子もたくさんいまして、やっぱりいろんな取組の中で、まずはやっぱり自分の故郷に帰ってきたいっていう、そういうですね、思いを持ってもらうことが大事ですし、そして一方でそういう人たちのための受皿を作っていくのもですね、我々の役割だと思いますので、またいろんな知恵を使って取組していきたいと思います。私からは以上でございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

まず最初にですね、皆様に通り御発言をいただきました。まだお時間がございますので、ここからは、フリートーク的にアトランダムにお話を、御意見等を伺えればというふうに思います。

私共の方で時間に限りがございますのでということで、非常に皆様コンパクトに御発言をいただきまして、まだ時間がございますので、先ほどの発言ではちょっと言い足りなかったとか、他に感じてらっしゃることとか、皆様が発言される中でお感じになったようなことがございましたら、お手を挙げていただいて、御発言をいただければと思います。ではA様お願いいたします。

(A氏)

よろしく願いいたします。

先ほどは観光資源のことを話したんですが、あと残り3つ実は用意してまして、その1つが、伊豆縦貫道の早期開通です。

鈴木知事は浜松市長時代に1,200億円の借金を減らした実績だったりとか、叩き上げとか、税金を1円も無駄にしないとかおっしゃってたんですけど、そういうようなところを私、見させていただいてきて、私、松下幸之助が好きで経営を、必ず毎朝「道をひらく言葉」の本を15分読んでから仕事をしてます。その中に「ピンとくる」というものがありまして、人間の神経と一緒に、足のつま先をつついたら頭にピンとくるような組織作りというのが大事だっていうのが書いてありました。

それを実際に鈴木知事が行ってるような感じをした中で、今回伊豆縦貫道の早期開通に向けて

どのような具体的なアクションとか今後の計画があるかっていうのを教えていただきたいということ、あとは人材不足の話が先ほど出てきました。

これ観光業でも全く一緒です。保育園の土日営業がない、高校生もアルバイトが禁止、伊豆地区には大学がない。そうするともちろんアルバイトしてくれる人、そういう人たちが全くいません。その中にはもちろん外国人労働者の受け入れというのも課題の一つになると思いますが、じゃあ外国人労働者に対し小規模な事業者にとって宿泊施設の準備ができるのか。そういうふうな課題もあって、実際には雇用も現状が問題です。

今、地域おこし協力隊の方々がいっぱいいますが、もちろん地域おこし協力隊の方々はありがたいんですけども、私達元々いる企業に地域おこし協力隊の人が入ることはないですよ。

これ、もし地域おこし協力隊の人が入ってくれば、起業じゃなくて、今ある企業でその人たちが働いてくれて、一定期間でも面倒見てもらうことができれば、その間に私達の会社も成長する可能性っていうのは、十分あると思います。

新しいことを知ってもらう。私も東京に出てきて、それから帰ってきたんです。潰れそうな会社っていうのを自分は受け継いでそれをどうにかしてやってきた中で、もちろんその都会の感覚や、観光客の方は都会の方ですから、その感覚に触れるのはとても大事だと思います。

そういうふうな地域おこし協力隊の方が一企業の中に入ってもらえるような体制ができれば、これはものすごい心強いなということを正直感じております。

あとは、今日来られたときに、道路の景観っていうのが、もしかしたら気になったかもしれません。ところどころ草がたくさん生えてるところがあるので、これをよけようとする。車がぶつかるとよけようとするので、これは一つ間違えれば交通事故の可能性もある。

動いてくれているはずなんです。年に2回ほどだと思いますが、ここでどうかはわかりません。ただ無駄を排除するという意味では、業者の選定とかの透明性っていうのが果たしてどうなっているのか、これが例えば2回しかできない業者がいや同じ金額で3回できれば、この雑草っていうのが減るんじゃないかと思っています。ですからその辺の透明性などを考えていただけたらいいんじゃないかと。

あとは漁協の問題もあるんです。漁協もですね、ちょっと半透明性のところがありますから、もしその辺もしっかりして見ていただければ、もう少し漁業を請け負う、漁師の人たちが生きる世界っていうのが見えてくるんじゃないかなと思っています。以上です。

(望月広聴広報課長)

知事お願いいたします。

(知事)

はい。はい、ありがとうございます。

松下幸之助を尊敬するという点で一緒でございますので、私の師でもございますので、ありがとうございます。私はやっぱり政治の原点は松下幸之助翁で、松下政経塾っていうのは政治経済じゃないですか、あの経は国家経営の経であり、自治体経営の経なんだと。やっぱり人様からお預かりした税金をですね、1円たりとも無駄にしないとか、将来に対して責任を持つとかこれはもう

本当松下翁の教えでございまして、私の場合は本当に政治の原点でございまして。

最初のお話は伊豆縦貫道の話で、これはね、本当にもうとにかく熱心に国に掛け合うっていうのが、これが一番でございまして、もうこれもういわゆる国営事業、国の事業でございまして、本当に早期に実現するようにですね、少しでも予算が多くつくようにですね、これはもう国交省とか、財務省とか、関係省庁並びに政治家等にですね、しっかりと対応していくと。今のいろんなこの早期実現に向けてのですね、いろいろな枠組みがありますんで、例えば首長の皆さんと一緒にですね、国に陳情するとかですね、あるいは経済団体の人たちの組織もありますし、あの手この手で取組をしていかなきゃいけませんし、あとやっぱり正面突破も必要ですし、いろんなルートで行く必要があって、私の政治ネットワークをフルに駆使してですね、頑張っていきたいと、先頭に立ってやっていきたいというふうに思います。

それから人材不足の問題、なかなかこれあの、難しい問題だと思うんですね。

ただ、僕はさっきちょっと外国人労働者の問題出ましたけれども、この人たちはやっぱり日本に来てもらって、一緒にこの国作りをしてもらうということが非常に重要ではないかなと。

これ人口100%減りますんで。これは間違いなく、ちょっと長くなりますけど1975年に出生率で2を切ってますね、出生率2.07を上回らないと人口って増えていきませんので、もう50年近く2を切り続けておりますので、これ増えてく軌道に戻すってのはもう何十年もかかるんですね。その間は人口ってのは確実に減り続けますので、私はやっぱりその人口が減っていく社会にどう適応していくかということがすごく大事だと思います。

そのときにやっぱりこの労働生産性の問題とか労働力の確保っていうのがあります。もちろんAIとかですね、新しい先進技術を活用して、今まで人の手を借りてた部分をですね、どんどん代替させていくということも必要ですし、一方でどうしてもそういうもので代替できない部分ってのは、やっぱり外国の方とかですね、あるいは働き方を見直すとか、いろんな形でですね、労働力確保していかなければいけませんので、ちょっと実は私はこの外国人との多文化共生が私のライフワークの一つで、今までもずっとやってきましたけど、ようやくここへきて日本も、単なる労働者、いわゆる労働力っていう考え方じゃなくて、やっぱり1人の人間を受け入れる。そういうことが少しずつ認識が変わってきてますので。やっぱり外国の方というと、同じ人間で、働くと同時に生活者でもあるので、そういう人たちのですね、やっぱり生活全般のことも考えていかなければいけませんので、これは持続可能性がございませぬので、そういうことは県でもしっかり多文化共生について取り組んでいきたいというふうに思います。

道路の除草の問題はね、これ今いろいろ単価が上がっちゃってますね、なかなか大変なんですけども、除草と同時に防草シートとかですね、防草テープなど除草しなくていいような形でですね、少しそういう手間省いていることもやってありますし、先ほどあの、業者選定の透明性の問題がありましたけれども基本、おそらく入札でちゃんとやってると思いますんで、ちょっと今ここで即答はできませんけれども、透明性の確保はしっかりやっていきたいと、思います。

ちょっとあの漁協の問題よくわからなかったんですが、これはどういう。

(A氏)

漁協関係者がいたら非常に申し訳ないかもしれませんが、魚っていうのは公銭（手間賃）

っていうのをいただくとか聞いてるんですね。要するに卸して、その何%かを漁協がそれに掛ける。

それが貝とかになったときには、なんていうか、公銭を掛けず、要するに安く仕入れて、そこに漁協が値段をつけて行って売って、何かこう、ずれが起きてるんじゃないかと。要するにこれは札をつけて、本当は札を競い合う仲であるにも関わらず、そうじゃなくて、漁協が値をつけて売ってるっていうのは、こないだ話を聞いたもんですから、本来はそうじゃないんじゃないか。

これがどこの漁協かっていうのは、その漁協の人たちが一番わかると思うんですが、そういうふうに適正な戦いをしていかなければ、もちろん民間はみんな適正な戦いをしていて、高く売るための努力をしていたりとか、そういうふうな努力はしてるんですが、そこがそうではないところがあることが、一つ仕入れに対しての問題が起きてるんじゃないかなというふうに感じています。

(知事)

わかりました。なかなか漁協内部の問題まで県がどこまで入れるかわかりませんが、実態等について調査をし、後日分かったら御回答させていただければと思います。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

その他、何か御発言ありますでしょうか。

G様お願いいたします。

(G氏)

よろしくお願いします。

先ほど今お話ありました、道の問題であつたりとか、やはり便利な生活にできればいいなと思いますし、災害に強い地域にさせていただきたいなと思うところがあるんですけど、その一方でちょっと気になることがありますして、私達先ほどお話ししたとおり、自然体験等々している団体で、自然と関わること、それから自然の実態であつたりとか、そういうのを知るところを目的で活動しているんですが、やはり今、例えば川だつたりとか、川の環境が非常に悪くなっていると。私の子供の頃なんかは、やっぱり魚がいっぱいいたりとかいうことは本当に豊かだったんです。

先ほども少し話があつたかもしれませんが、漁船に乗せていただいて、海のことを知ろうということで活動をするところもあるんですけども、やはりあの海を眺めると、自然が豊かだななんて本当にいいとこだねなんていう話なんですけども、でも実は本当に磯焼け、本当に海が死んでいっている状態もあるということをご先ほどもお話あつたと思います。例えば天城山なんかやっぱり昔クマザサとかいっぱいね、自然が豊かだったのが、本当にもう今そういう面で環境がどんどん変わってきているということを実感してます。

そういった面で、やはり例えば洪水の起こらないような川にするとか、本当にそういうこともすごい大切だと思うんですけども、それと一方で、やはり自然を守ることだつたりとか、そういう活動を進めていってほしいなっていうことはすごい感じているところです。

いろいろとどうして欲しいっていう具体的には、すいません申し訳ないですけども、やはり今言ったような実態があるということももちろん御存じだとは思いますが、やはり地域の住みやすさを守る、住みやすいまちにしていく、地域にしていく反面、やはり自然を守るっていう面で、これからもっと積極的に、県の方でもいろいろと支援活動とお願いしたいなというふうに思っています。以上です。

(知事)

はい、ありがとうございます。

自然環境についてはですね、かなりやっぱり環境基準というのが、公害からですね、日本は厳しくなりまして、相当例えば昔はもう魚も住まないようなですね、もうひどい川が、アユが遡上するような川に変わってきたとかですね、どちらかという結構頑張って今までこれまで環境を守るっていう活動についてはやってきたと思うんですけども、僕はやっぱり一番この危機感持っているのは温暖化の問題なんですね。

これやっぱり相当この温暖化ってのはいろんなところでですね、今までの環境を変えて、さっき言った漁場の問題とか海の環境の問題って、間違いなく温暖化の影響なんで、やっぱり基本的にはこの温暖化をストップさせるってことをですね、これは全人類でやっていかないとですね、これ大変な、環境守るところか人類が住めない地球になっていく可能性は高いと思いますので、その問題はなかなかこれも県だけできませんけれども、これもとにかくあの温暖化防止に向けてのですね、いろんな活動はしっかりやっていきたいと思いますので、これ官民を挙げてですね、やらなきゃいけないかなというふうに思います。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

(B氏)

先ほど知事の方からも、地域の方でも事業所を複数設置していくっていうのが平成 24 年の児童福祉法の改正とかその辺りで多分、しっかり上がってきてると思うことなんですけれども、ただ本当に静岡県、賀茂だけじゃないと思うんですけど、過疎は浜松の方もあるということで、いろんな地域であると思うんですが、やっぱり賀茂地域では、もちろん事業所を増やすっていうのも大事だと思うんですけども、そこに伴うやっぱり私達の制度として、教員免許だったり、保育士じゃなきゃいけない、理学療法士など資格者でやっていかなきゃいけないという決まりがある事業の中で、やっぱりそういう人材を確保するっていう部分もすごく大変にはなっていて、ただ本当に最初 4 人で、スタッフも 4 人で最初スタートしたんですけども、今地域の方たちの採用とかで、20 名ほど働いていただいている、そこも本当に私達もせっかく良い環境の中で働けるっていうところで、地元であの若い子たちが仕事なくてっていう子たちも、まず資格がなくても採用してっていう形で研修を受けて資格を取らせてっていう形をやっていきます。

そのおかげもあって本当にいろんな若い子たちから 60 代の方まで、私達の施設では採用して

皆さんがやってくださっているんですけれども、本当に事業者の数を増やせば何とかなるっていう問題ではなく、子供の人数もやっぱり三島沼津市修善寺あたりと比べれば全然数が少ないです。

ただ少ないんですけども、支援の必要な子たちはやっぱり割合的には多くなっていて、そこをやっぱり今、賀茂の中で3つの事業所で今なんとかやってるんですけども、今年度、東伊豆の方もやっぱりどうしてもやっぱ片道45分ぐらいかかってしまうので送迎が、なので東伊豆の方も今年度ちょっと事業所を立ち上げるということで町長さんの方にも協力していただいて、そういう中においても旧稲取幼稚園の跡地で、本当に協力していただいてって形で今頑張ってるっていうか、だからその賀茂の現状っていうところを送迎っていうところはもちろんメインにはなってきた、距離がすごくやっぱり遠いので、そのあたりが他の修善寺、三島とかの地域で事業所を増やしていきましようというのとはやっぱ少し話が違ってきてしまうので、それこそ私達賀茂で今年は事業所ないので、その中で中核事業所加算みたいなものを少し制度的に考え始めてくれてはいるんですけども、その内容なんかもちよっとやっぱ、市町、ちょっと町よりの感じで考えられているので、そこがなかなかあの賀茂だとちよっと難しい部分で、そういうのが取れなかったりとか、やっぱ私達の制度の中でやっていくものなので、そこがちょっと賀茂の独自の何か加算だったり、何かをちよっと制度を考えていただけると、もう少し、これ伊豆半島では事業所4つにはなるので、その中でやっぱり困っているお子さんたちのお役に立てたらいいかなとは思っているんで、そのあたりを考えていただければと思います。

(知事)

はい、わかりました。

これは確かにそれぞれの地域の特性に応じてですね、非常にそのハンデを背負うような地域がありますから、これまた県の方でね、ちょっと考えていきましょう。確かにあの天竜区っていうさっき言った過疎地域があるんですけど、その介護ってのはですね、すごい1件の時間がかかるんですね。そうすると誰もやらないですよ、それは町の方が効率的ですから。

だからそうするとでもそこにはやっぱり介護技術を持った人がいて、当然そういう条件不利地域に対しては加算措置みたいにしていただくことありますので、当然それそういうなかなか大変な状況の中でやっている地域にはですね、そうした支援をですね、していくことは必要だと思いますんで、ちょっとこれまた県の担当の方で検討したいと思います。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

その他、何かございますでしょうか。

今回賀茂地域ということで、皆さんやはり過疎というか人口的にも少なかったりということでの問題を多く提起していただいております。御自分がお話になりたいと思ったこと以外にでもですね、何か皆様のお話を聞いた上で御発言とかあるようでしたら、いただければというふうに思っていますけれども。

(F氏)

すいません、移住・定住に関してなんですけども、今、移住・定住に関してEさんもおっしゃったんですけども、支援いろいろ県でやっていただいていると思うんですけども、基本的に支援があるのは結構家族子供持ち、小さいお子さんがいらっしゃる方の支援っていうのが結構多いと思います。

僕なんか中年で移住してきたんですけど、中年に対する移住支援っていうのは基本的にあんまりないんですね。多分年齢で足切りされたりっていうのがあるんですけども。

今、多分移住してくるとしたら多分東京とか横浜とか神奈川とかが多いと思うんですけど、移住しやすいとか、したい人ってのは結構独身中年は多いと思うんですよ。まずフットワークがすごい軽くて、多分動きやすいっていうのはあります。もしその辺が増えてくると、何かAさんがおっしゃってた労働にも繋がると思うんです。

都会での仕事に疲れて、ちょっと地方でのんびり暮らしたいなっていう人がいると思うので、そういった中年の独身の男性も女性も、移住のなんか、そうですね案があれば手当みたいな、多分お金的にはそんなに困ってないと思うので、何をしたらちょっとすぐ移住に繋がるかというところ今思いついたんでまだ考えてないんですけど、中年に対する就労促進っていうのは、いろんな良い方向に。自分もそうです、移住して何かいろんな町のイベントが出てるんですけども、僕今43歳なんですけど、結構最年少だったり若手になるんですよ、神奈川から移住してきたんですが、神奈川ではそんな若手じゃなかったんですけど、今ここに来ていろんな活動参加している若手としていろいろ動いているので、そういった中年の移住にも力入れていただけたらありがたいなと思います。

(知事)

はい、わかりました。

何か移住・定住っていうとね、若い家庭持ちの、そういった何かステレオタイプが対象になってるんじゃないかっていうお話ありましたけれども、これはまあね、もちろん年齢に関係なく単身世帯であっても、来ていただければ大変ウェルカムでありますんで、ちょっとその辺の今の制度の仕組みどうなっているかわかりませんが、ちょっと課題認識として受けていただければというふうに思います。大事な御指摘だと思いますので、はい。

かなり私もいると思うんです。もう東京生活に疲れて、戻りたいっていうのは私もそうでしたんで、そういう、岩井町長も何かここにこしてましたけれども、はい。

そういうなるべく特に実は静岡県って御存じの通り、移住先の人気ナンバーワンなんで、非常にチャンスでございますので、あまり特定の層にこだわらず、行きたいという方を温かく迎えらるる仕組みにしたいというふうに思います。ありがとうございます。

(F氏)

東京、神奈川から近いっていうのが、すごいかいと思うんです。

(知事)

おっしゃるとおりですね。

結局、完全に離れちゃうのも嫌ですけども、静岡県、特に東部ですと、すぐに東京にアクセスできる環境の人が多いので、二拠点居住とかですね。二拠点活動というのも、僕はもうものすごくポテンシャルがあると思ってまして、ちょっとそういう取組もしていきたいと。国も今二拠点居住を推進し始めてますんで、この追い風に乗っていききたいなと思います。

(A氏)

なかなかその中小企業の給与形態が都会とやっぱり差がどうしても起きてるんです。

最低賃金は、小さな企業でも守ろうと、もちろん動いてるんですがそこら辺が一つ自分たちも正直ネックになってるところが、どうしても中小だと大きく取られてしまう。

もう少し大きな会社に取りられがちで、なかなか、地元の若い人を取り入れるのも本当に苦労してる次第でございます。ですからその辺がもう少し何かその、ずっとじゃなくてですね、一定期間でいいので会社へその人たちの力を貸していただいて、その間に会社の力をつける、そのような体制に力を貸していただけたら、本当にありがたいなというふうに思ってます。

あともう一つちょっと、稲生沢川っていう川が下田にあるんですが、そこに船がですね、止まってます。使っていない船が。あれが震災のときなどに、万が一の時に、船が脅威になるっていうふうな話が出てまして、それがまだそのまま多分停泊してる状態、たくさん泊まってる状態なんですね。

もしその辺も動いていただくことができれば、住んでる人たちにとっては一つの安心材料に繋がるんじゃないかなと思います。

(知事)

それは違法係留の問題だと思いますんで、これ、いろんなところでこの問題出てます。持ち主がわかっている場合は比較的対応しやすいんですけども、持ち主がわからないような船があったりもしますんで、ちょっとこれあの確か県の方でも対応してるんですね。またちょっと改めて回答させていただきたいと思います。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

では、C様お願いします。

(C氏)

今、いろいろなお話を聞いてて、移住・定住等のこともあったと思うんですけど、その先の子育てをしていて、ここから高校、大学へっていうところが、東京も静岡も比較的近い地域なんですけど、子供を育てていると、そこにやっぱり交通費だとか、そういったところが通うのにかかってしまう。

やっぱりそのコスト負担っていうのが親的にはここではやっぱり子育てしにくいのかなっていうところでネックになっていると思っています。そういうところの負担の軽減っていうとこ

ろを何か考えていただけると、東伊豆、賀茂地域でも子育てをして子供を大学、高校へと進学させようっていう、ここに住んでいて進学させようっていうのが考えられるのかなと思って、そういうところをお願いできればなと思います。

(知事)

はい。わかりました。

かなりやっぱりね、財政的な負担も大きくなるんで、今、財源が限られている中で、どこに一番力を入れたらいいかってやっぱり優先順位をつけてかなきゃいけませんので、なかなか個人全般にですね、全ての人に支援するってのはなかなか難しいと思いますけども、何かメニューの中でですね、できることがあれば、また考えていきたいと思います。

(A氏)

大学の誘致などは考えたことがありますか。

(知事)

これはかなり現実的に難しい。

つまり、むしろ今ね、大学を減らしていく方向なんですね。もうどんどん地方の大学が定員割れして行って、もうどんどん大学がいわゆる廃校じゃないけども、どんどん閉めていく状況であって、全体としてですね、つまり、もう大学も減らしていこう、定員も減らしていこうという、世の中全体の流れとしてそうなっているんで、新設の大学を作るとかですね、誘致をしてくってのはかなり難しい、ハードルの高いことだというふうに思います。

(望月広聴広報課長)

その他、何かありますでしょうか。よろしいですか。

ちょっとだけ時間がございますので、皆様一言ずつ、感想等も含めて何かお言葉を頂戴できればと思います。それではG様の方から、反対側からお願いできますか。

(G氏)

はい。そうですね。

ちょっとこちらに参加する前に、いろいろとネットで静岡県のことをちょっと調べてみたんですけどそんな中で、静岡って、すごく自然環境が豊かで住みやすい地域のはずなのに、なんか幸福度ランキングを見るとなんかちょっと低いんだなっていうのを見て、逆にそうなのかと思いました。

そういった中でなんでそうなのかなって考えてみたりしたんですけど、やっぱり地域のなんというんですか、やっぱり幸福感を感じるのは、あのお金とかそういうことじゃなくて、やっぱり家族だったりとか仲間だったりとか、やっぱそういう繋がりが深い関係があって安心できる場所やっぱり幸福感を感じるっていうお話がちょっとありまして、なるほどなんていうこともちょっと思ったんですけど、やはりいろいろと人口を増やしたいとか、もっと働く場所が欲しいとか、

もちろんそれは今お話ししたとおり本当にいろいろあるんですけども、やはり静岡県が本当に良い県になるには、やはり何か地域の人と繋がったり、家族が繋がったり、もちろん先ほどFさんからありましたけど、家族がどうだこうじゃなくて、やっぱり仲間とか、そういう仲間の繋がりとかってそういうことができる地域にしていけないといけないんだなあっていうところを感じまして、やはりそういった意味ではすいません、なんか漠然とした話で申し訳ないんですけども、やっぱりそういった視点でも、先ほどしてますと言った私達の活動も、人とか地域のことを知ったり、人と繋がるっていうのを大切にしてきてる活動なので、やっぱりそういった視点で、活動を応援していただいたりとかっていう場面もいただけたら嬉しいなっていうふうに思っています。

以上です。ありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

F様お願いします。

(F氏)

はい。本日はこのような話す機会をいただけてありがとうございます。

ちょっとすごい緊張感ある中で、ちょっとフランクに、多少フランクにも話せたので良かったかなと思うんですけども。

先ほども話したんですけども、僕移住してきて1年半ぐらいなんですけども、すごく楽しく暮らせてて移住してきてよかったなと思っているので、そういう移住したいけど踏ん切りつかない人っていうのは結構いると思うので、そういう人がまた呼べて、そういう人のなんか幸せに繋がればいいなと思って。

そして町を良くして、そういう移住者を呼びこんだりとか、そういうのが町の発展に繋がると思います。ぜひ町も頑張りますので、知事もよろしく願いいたします。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

E様お願いします。

(E氏)

はい。ありがとうございました。

結構今回出た課題は全国共通の課題も多いなと思う中で、一民間事業者としては変わらずこの地域の個性を生かしてビジネスをやっていくべきかなと思っているのと、ぜひ地方自治としても、この立地とか、この地域の特性を生かした、個性のあるような政策をしていただければなというふうに思いました。はい。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

D様お願いします。

(D氏)

本日はありがとうございました。

感想というよりはあれなんですけど、一つちょっと思い出したことがあって、外国人の方の労働っていう話なんですけど、東伊豆だけじゃなくて南伊豆とか、あの今WWOOFジャパンとかいうことで、1箇月とか、外国人の方が5時間の労働と泊まるところと食事が引換えでっていうので結構来てくださって、何ヶ月か滞在する方とかもいるんですけども、やっぱりそういった中で外国人の方だから、言葉の問題だとか、結構農家の方とか、本当はすごくマッチングしやすいだと思んですけど、なかなかそこら辺が手が出せない状況になったりとかしてるのかなっていうのもあるので、またそういうのをサポートしながら、地域で活用できればいいのかなっていうふうにちょっと感じたので、お話しさせていただきました。

はい。今日はありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

それではC様お願いします。

(C氏)

本日はありがとうございました。

ざっくばらんに思ってることをお話しさせていただいて、すいません。よりよく、この町に住みやすく、皆笑顔でいられるような町が築けていけたらなと思うので、また県の方としてもご協力いただければなと思います。本日はありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

ではB様お願いいたします。

(B氏)

今回は、こんな素敵な機会にお声掛けいただいて本当にありがとうございました。

私達の事業と本当にまた違う、違ったその観光だったりとか、移住だったりっていうところで、お話いただく中で、やっぱり繋がってる部分ってものすごくたくさんあって、先ほどの伊豆縦貫道とかもそうなんですけど、伊豆縦貫道のお陰で、私はあの三島と、下田を二拠点生活が、はい。

私三島で、本当にあのめんたいパークとか、本当に乗る近くなので本当に通勤も1時間半ぐらいで来てます。河津の道路も繋がったので、そこが繋がってからは本当に15分から20分ぐらい短縮されて、うちのスタッフも、富士から松崎に通ってくれているスタッフがいて、そこも本当に縦貫道のおかげだなっていうのは、今日本当にいろいろお話しさせていただいて思いました。

いろんな地域で本当に頑張ってる方たちがたくさんいるので、その中で私達も一緒に協力しながらやらせていただけたらなと思いました。ありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

A様お願いいたします。

(A氏)

今日はどうもありがとうございました。

下田の駅前で私も点としてしっかりとずっと輝き続けるよう努力をし、それが線となって、最後、それが面となって、そのような位置づけでしっかりと頑張っていきたいなというふうに改めて思いました。

選挙のときに西寄りだとか、東寄りだっというのを、僕、考えながら実は今日来ていて、その中で今日松下幸之助の話から、よかったなと、やっぱ県全体をちゃんと見てくれてるというふうに今回感じさせていただいて、すごく期待してますので、ぜひよろしくお願いいたします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは最後に、知事まとめまして一言お願いいたします。

(知事)

今日は本当に皆様いろいろとですね、率直な御意見をいただきましてありがとうございました。

共通してやっぱりこの賀茂地域のですね、素晴らしい自然や観光資源ですね、そうしたものをよく御理解をいただいて、ここはいいとこだということを前提、かつ、しかし一方で、人口減少の中で、様々な社会課題があるということもですね、お感じいただいて、それをやっぱ官民挙げて取り組んでいかなきゃいけないなと、改めてですね、私も認識をいたしました。

先ほど幸福度の話が出ましたけれども、これも本当今まではですね、なんとなく図書館が何軒あるとか、映画館が何軒あるなど客観的指標を積み重ねていって、その地域の住民の幸福度みたいのを測ってたんですけども、客観的指標で測れるもんだらうかということで、実は今注目されているのがウェルビーイング指標というんですね。

そこに住んでる人たちの主観的な思いをですね、いかにそれを指標として、それが上がっていきつつは、それは住民の皆さんの満足度、幸福度が上がってるってことなんで、それ大きく3つの分野がですね、1つはやっぱ健康でなければいけないんで、自分の身体の問題。それから精神の問題と心の問題ですね。3つ目がやっぱりね、コミュニティの中にしっかりと位置づけられてるかっていう、この社会の繋がりの部分、これは非常に大事。

これも大事ですけど、先ほどお話出ましたけれども、この3つの分野で住民の皆さんの満足度が上がっていくとですね、これはすごく幸福度が上がっていくということで、これからの静岡県、客観的指標もちろんこれまでどおり大事にしますけれども、このウェルビーイング指標と言われるですね、静岡県の県民の皆さんのこの主観的指標をですね、これを上げてくってという、それ

を施策と合体をさせることによって、効果的な施策を作り上げていくっていうね、そういう取組をですね、ぜひしていきたいと。それが私がいつも言う「幸福度日本一の静岡県」を作っていくということに繋がるというふうに思いますので、県もこれからはしっかり頑張って参りますので、引き続き御理解と御支援賜りますようお願い申し上げまして、締め御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

本日は貴重な御意見をたくさんいただきましてありがとうございました。

いただきました御意見等につきましては県庁内各部局の方にも情報共有を図って対応をしてみたいと思いますので、よろしく願いします。ありがとうございました。

それではこれもちまして、知事広聴「やすとも知事と県政を語ろう」を終了いたします。

発言者の皆様、本日は誠にありがとうございました。